



『強い心』

山口県

鴻南少年剣友会

小学6年生

寺崎 滉平

ぼくが剣道を始めて5年になります。この5年の間、道場で練習をしたり出げいこに行ったりしたけど、なかなか強くなれません。試合に出ても一回戦、二回戦くらいで負けてしまう事が多いです。

「どうしてだろう。」と思っていた時、ぼくはある本に出会いました。本を読んでいくうちに、ぼくと主人公ゆうたとの違いが少しずつ分かってきました。

まず、スポーツへの思いが、ぼくと全然ちがっていました。ゆうたは、「バレーが好き。だから、少しでもうまくなりたい。絶対に負けたくないから、くいの残らないように練習するんだ。」という強い意志を持っていました。

ぼくは、どうだろう。剣道をしたくてたまらないから剣友会に入ったわけではない。兄が入ったから、それを見に行き自然の流れでいつの間にか入ったという感じです。だからみんなと比べると、少しでもうまくなりたい、強くなりたいという気持ちが、欠けていると思います。なので、すぐ、「つらいなあ〜。」とか「きついなあ〜。」と思ってしまい、心が弱いんだと思いました。ぼくにはもっともっと強い心が必要なんだ。

それから、「自分の頭で考え、進んで練習に取り組んでいないなあ〜。」とも思いました。いつも、道場で先生方にくせを直す様に言われ、色々な事を言われますが、そのくせをその時は気を付けているけれど、次の練習の時には、また同じ事を言われ、いつも注意されます。ゆうた達のチームのように、進んで練習に取り組んだり、一人一人が自主練習をしないと強くはならないと思いました。うまくなれば、試合で勝つ事が出来る。勝てるようになると、少しずつ好きになれるかもしれない。

もう一つ、ゆうたたちのすごさを発見しました。それは、チームワークがよくて、チームプレーが出来るという事です。チームのみんなが、はげまし合っている事です。ぼくたちのチームはまだ、一枚岩になっていないで個人プレーのように思います。チームが一つになってつなげていけたら、もっと強くなれると思います。この本は、ぼくにスポーツへの取り組み方を考えさせてくれました。そして、みんなと一緒に剣道が出来るうれしさを教えてくれました。

ぼくは今、剣道をする事ができません。理由は友だちにいじわるをしたからです。

「そんなことをした人間は、剣道をする資格がない。」

と言われ、今ぼくは、道場で練習をする事も出来ず、試合にも出られません。ぼくがした事で、友だちやチームのメンバーや先生方に迷わくをかけて、もうしわけない気持ちでいっぱいです。

今、ぼくは一日も早く道場に行ってみんなと一緒に剣道をしたいです。今までは、普通に道場に行って普通に練習して、剣道の友達と普通に遊んでいたのに、それが出来なくて、すごく悲しいです。その普通の事がぼくにとってとても大事な事だと、今本当に実感しています。仲間と一緒に剣道が出来る事が、こんなにステキな事なんだと、つくづく思いました。試合で勝つ事も大事だけど、ぼくは、この仲間と一緒に剣道を、つづけて行きたいです。そして、もっともっと強くなりたいと思います。